

●プログラム（全て口頭発表です）

○10:30～10:40 会より事務連絡

○10:40～12:00 セッション1（環境要因に対する生物の応答）

- ・純淡水魚類の流程分布とセグメント区分—九大水実・河川魚類相DBを使った分布解析事例：○鬼倉徳雄（九大院農）・中島淳（福岡保環研）
- ・汽水性ハゼ類の分布を数値地図データから予測する—キセルハゼ（絶滅危惧ⅠA類）の水系スケールでの分布を規定する環境条件について—：○乾隆帝（九州大学農学研究院）・江口勝久（佐賀県玄海水産振興センター）・中島淳（福岡県保健環境研究所）・鬼倉徳雄（九州大学農学研究院）
- ・山附川における河道内植生と物理環境の関係：○劉義濤、的野直矢、島谷幸宏（九州大学大学院工学研究院環境都市部門）
- ・生息環境評価におけるモデルの複雑性と再現性に関する—考察—ファジィ生息場選好性モデルを例にして—：○福田 信二（九州大学熱帯農学研究センター）、Bernard De Baets（アントワープ大学バイオサイエンス工学部）、鬼倉徳雄（九州大学大学院農学研究院）、中島淳（福岡県保健環境研究所）、向井貴彦（岐阜大学地域科学部）

○昼休み

○13:00～14:20 セッション2（海域～汽水域）

- ・北川感潮域における河床材料の違いによるカニ類の生息状況について：○坂井智美、伊豫岡宏樹、皆川朋子、渡辺亮一、山崎惟義（福岡大学工学部社会デザイン工学科）
- ・五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川および北川感潮域におけるカニ類の生息環境：○伊豫岡宏樹（福岡大学工学部社会デザイン工学科）、楠田哲也（北九州市立大学国際環境工学研究科）、島谷幸宏（九州大学大学院工学研究院）、渡辺亮一、皆川朋子（福岡大学工学部社会デザイン工学科）
- ・海岸護岸におけるオカガニ等の移動分断対策：○福島 新、黒崎靖介、富坂峰人、御前雅嗣（日本工営株式会社）
- ・河口域の人為改変に伴う水温環境の変化：○大槻順朗（九州大学大学院工学府都市環境システム工学専攻、日本学術振興会特別研究員）、島谷幸宏（九州大学大学院工学研究院環境都市部門）

○休憩

○14:30～15:30 セッション3（生息環境の創出）

- ・代替横坑におけるコキクガシラコウモリ（*Rhinolophus cornutus*）の生息環境の創出：○山本史子、中嶋雅孝（財団法人九州環境管理協会）、中川順野（福岡県伊良原ダム建設事務所）、荒井秋晴（九州歯科大学総合教育学分野）
- ・裂田溝における護岸改修工事が魚類群集に与えた影響と復元工法の提案：○渡辺

健一（福岡大学大学院）、渡辺亮一、山崎惟義、伊豫岡宏樹、皆川朋子（福岡大学）、島谷幸宏（九州大学）

- ・絶滅危惧種・外来種の二面性を持つ淡水魚ワタカに関する報告～導入先での環境選好性から在来生息地の修復技術を考察する～：○大畑剛史・井原高志・乾隆帝・大浦晴彦（九州大学水産実験所）・中島淳（福岡県保健環境研究所）・鬼倉徳雄（九州大学水産実験所）

○休憩

○15:40～16:40 セッション4（川づくり・維持管理など）

- ・「中国太湖の現状とハイブリッド型バイオマニピレーションの試み」～応用生態工学のグローバル化を目指して～：○井芹寧（西日本技術開発（株））・久場隆広（九州大学工学府）・ハオ愛民（東アジア環境研究機構）・劉玉賢・岡貴稔（九州大学工学府）・張振家（上海交通大学）
- ・自然再生事業における市民主体の維持管理体制の構造について：○林博徳、島谷幸宏（九州大学大学院工学研究院環境都市部門）、泊耕一（国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所）
- ・最近の多自然川づくりの動向と応用生態工学的評価○島谷幸宏（九州大学大学院工学研究院環境都市部門）

○16:50～17:30 総合討論

○終了後 懇親会（西新プラザ内、参加費¥3,000程度）